

事業所の概要表

(平成30年 1月26日現在)

事業所名	グループホームこもれびの家		
法人名	医療法人明生会		
所在地	愛媛県四国中央市下柏町54番地1		
電話番号	0896-23-2427		
FAX番号	0896-23-2428		
HPアドレス	http://		
開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input checked="" type="checkbox"/> 平屋 ( ) 階建て ( ) 階部分		
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( )		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9 人
利用者人数	9 名 ( 男性 1 人 女性 8 人 )		
要介護度	要支援2 名	要介護1 名	要介護2 4 名
	要介護3 5 名	要介護4 名	要介護5 名
職員の勤続年数	1年未満 1 人	1~3年未満 3 人	3~5年未満 2 人
	5~10年未満 1 人	10年以上 人	
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 5 人
	その他 ( )		
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( <input type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約 )		
協力医療機関名	医療法人明生会長谷川病院		
看取りの体制(開設時から)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ( 看取り人数: 人 )		

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円		
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		
食材料費	1日当たり 1,000 円	朝食:	円 昼食: 円
	おやつ: 円	夕食:	円
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input checked="" type="checkbox"/> 外注(配食等)		
	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
その他の費用	・ 水道光熱費	12,000 円	
	・ 共益費	9,000 円	
	・	円	
	・	円	

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 3 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年2月14日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	8	(依頼数)	8
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3891300075
事業所名	グループホーム こもれびの家
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	鈴木 香織
自己評価作成日	平成30年 1月26日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b> 利用者様とが家族の笑顔と安心を求めて「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人との結びつきを大切に」</p>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b> 目標 安全な環境づくりと介護技術の習得を行なう 馴染みの関係づくり 取り組み 居室家具の配置変更や障害物の除去、車椅子や歩行器を置く場所を確保し安全性を高めた。勉強会を定期的に行い知識や技術の習得向上を図った。利用者に寄り添い、目・耳・心を配った対応を心掛け馴染みの関係を作れるように努めた 結果 環境整備を実施し安全な生活の確保ができ、勉強会にて習得した知識や技術にて意識向上が図れた事で見守りや寄り添いの姿勢が柔軟かつ慎重に行え転倒事故等の減少に繋がった</p>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b> 歩行訓練の目的で、廊下を歩いたら「四国八十八ヶ所の遍路旅」ができるような取り組みをしている。(廊下の壁に八十八ヶ所の寺の地図や写真を貼り、歩いた距離によって寺を進み利用者の名前を書いたマグネットを置いている) 昼食前には歌詞カードを配り、職員がピアノを弾き一緒に歌う時間をつくっていた。 近所の散歩時には、ごみ袋を持参してごみ拾いをしている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活習慣や性格などに合わせ、家族を交えて相談対応する事で希望や意向を把握し暮らしや支援に反映している	○		○	入居時、基本情報項目に沿って本人や家族から聞き取り把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の記録等を活用し、朝礼やミーティング等で検討を行っている。安全面に配慮し本人主体で業務に取り組んでいる				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族面会時のコミュニケーションで、話し合えるように努めている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の記録や基本情報、介護計画書等に反映している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言動から些細な事でも普段と違う内容であれば、記録し、職員間で情報共有、対応方法を検討している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	事業所独自のアセスメントシートを作成しており、ご家族に記入の協力や聞き取りを実施し収集に努めている			◎	家族には、アセスメント表に生活歴や生活環境などを書いてもらっている。入居1ヶ月以内に本人や家族から聞き取りを行い、パーソンセンタードケアの様式に沿って、ともにあること、自分らしさをまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	様々な視点や角度から試み、残存能力や機能を考慮した上で、得意な事等を引き出し、職員間で情報共有を図り支援している				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の言動と、それに対する職員の言動等を記録し、場所や場面だけではなく、その後の対応方法を検討し最適化を図れるように努めている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	時間や場所、内容等を様々な視点や生活歴等から探り、職員間で話し合い検討し把握に努めている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間アセスメントシートを活用し、申し送り等にて把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	月例ミーティング時に全職員で情報共有を行い、意見交換や話し合いにて検討している			○	共同生活評価表や24時間アセスメント表をもとにして職員ミーティングで話し合い、利用者の立場で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	月例ミーティング時に全職員で意見交換や話し合い、検討を行い、目標と具体的な支援内容や方法を決定している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	月例ミーティング時に検討し、必要に応じて家族にも協力を要請している				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の訴えや、ご家族からの情報をもとに作成している				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	職員が中心に作成しており、家族とは面会時等の会話にて確認している	○		△	家族から事前に聞き取ったことや本人の希望を踏まえて職員が作成している。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活歴や残存機能を活かした内容にしており、過ごし方や本人の希望に添えるように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族や地域の人たちの協力体制は盛り込まれたものになっていない				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日記している個人記録のファイルに計画書を綴じ、毎日確認を行い把握、理解に努めている			◎	個人記録のファイルに介護計画書を綴じて共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	達成状況表に毎日評価し、介護計画書にもとずいた支援内容等を個人記録に記し、必要時は職員間で状況確認を行い、カンファレンスにて、その情報をもとに支援方法や内容を決定している			○	達成状況表に毎日チェックを入れてケアが実践できたか確認している。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個人記録に言動等を記録している			◎	日々の介護記録に観察事項や訴え、行動などを時系列に記録している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	状況に対応した時間や内容、言動を個人記録に記しているが、工夫やアイデアは個別ではなく申し送りノートに記録したり口頭が多い			△	日々の介護記録に「気づき、対応」の記録欄を設けているが、記録量は少ない。申し送りノートに記入するケースはあるが、その内容を探し難い。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	◎	3か月に一度、または心身状態の変化に応じた必要時に見直しを行っている			◎	時期を一覧表にしており、3ヶ月に一回の見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月例ミーティング時に、全利用者の現状確認を行っている			◎	1ヶ月ごとに評価を行い、現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族や主治医に相談し、柔軟に行っている			△	入退院など状態変化があれば見直しを行っているようだが、この一年間では事例がない。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月例ミーティングは必ず実施し、チームとその課題を抽出し解決に努めている。また、稀ではあるが、必要に応じ月例ミーティング以外での開催も実施している			○	毎月、ミーティングで話し合いを行っている。入居者が急に決まるようなことがあれば会議を行うが、この一年間では事例がない。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	月例ミーティング前に議案を提示し、自由に記入できるようにしている。一部の職員に意見が偏らないように適宜、全職員に意見も求めており、和やかでリラックスし発言できる雰囲気作りを努めている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	年間開催予定日時を事前に全職員へ周知しており、勤務表作成時において職員の希望や行事に配慮し、全職員が出席できるよう努めている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を専用ノートに記し、重要事項については口頭でも伝達している			○	原則全員参加となっているが、欠席者があれば議事録で内容を確認し、さらに管理者が口頭で伝達している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	朝礼や月例ミーティング時に伝達すべき内容の確認を行い業務マニュアルにて確認時間を記し、しくみ作りを努めている			◎	申し送りノートに記入して、確認した職員は押印かサインをするしくみをつくっている。全員が確認したかを管理者が管理している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	伝達内容により専用ノートや記録物を使い分け、確認した内容には署名やチェックを入れる等にて把握に努めている	◎			
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々のコミュニケーションを通じ把握しており、状態に合わせて出来る事を提供している				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	暮らしの中で無理強いはせず心身状態を考慮しながら、コミュニケーションやスキンシップを通じ、意向に沿える支援を心掛けている。			○	おやつ時に飲み物を選んでもらったり、食事時に主食量を聞き、自己決定する機会をつくっている。
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個々の特徴や力に合わせて、コミュニケーション方法を選択し、声掛け等の工夫を行っている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	個々のペースを優先し、習慣の継続に努めているが、入浴に関しては、人員配置や業務内容や時間が優先しており希望に沿う事が難しい				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員が笑顔で対応する事を常に心掛けており、個々の趣味や興味のある情報をコミュニケーションに取り入れている			◎	モップ掛けをしている利用者に対して「いつもありがとう」と声かけしていた。昼食前には歌詞カードを配り、職員がピアノを弾き一緒に歌う時間をつくっていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	スキンシップ等のコミュニケーションを通じ、寄り添いの時間を大切にしている。バイタル測定等の目に見えない情報も収集し総合的に判断し、安心した暮らしの提供に努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	月例の認知症学習や外部研修にて学びの機会を設け、意識の向上に努め、尊敬の念を持ち、個々の性格に合わせた対応の実践に努めている	○	◎	◎	「○○さんこれしていただいてもいいですか」と声かけし、後で必ず「ありがとうございました」とお礼を伝えていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	必要以上に声量を出す事なく言葉かけを行い、過度な言葉掛けになっている時は職員間で注意している			○	利用者がトイレに入った後、そっと付いて入り、介助している様子がみられた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	必ず扉は閉め、確認や見守りが必要な時は最小限に留めている。脱衣時はタオルを使用したり、男性職員に嫌悪感を示す場合は女性職員が対応する等の配慮を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	声掛け確認を行いながら、ノック入室している			△	入室時、声かけやノックして入る様子も見られたが、自由に出入りするような場面もあった。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	同意書にて誓約しており、情報(書類等)の持ち出しや口外は禁じており遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	互助精神を念頭におき、必ず感謝の気持ちを言葉に伝えており、利用者からも感謝の気持ちが表れる事がある				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	交流を通じ、楽しみが生まれたり、笑顔がみられ、気持ちの確認や共有で不安緩和に繋がる事を理解しており、支えあう暮らしが実践できるように交流を促し支援している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)	○	利用者同士の関係を把握しており、適宜席替えを実施する等にて円滑な関係性が維持できるように努めている。また、職員が仲介する事により、孤立しないような配慮に努めている			○	よくお話しする人、話しかけると迷惑がる人、指図されたくない人などを考慮してテーブルの席順を決めている。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入り適切な声掛け、場面転換を行っている。また、当事者と他利用者の両面のサポートを職員間で連携を図りケアに当たっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	基本情報として家族構成等の聞き取りを行い、入所時アセスメントとして人間関係の把握に努めている				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	事業所独自で作成したアセスメントシートの活用、本人や家族から聞き取る等にて情報収集に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないうち支援している。	○	本人が行きたい場所があれば、外出行事として計画し実施している。また、ご家族に依頼する事もある				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	定期的な清掃にて環境美化に努め、写真や季節の掲示、花を飾る等にて家庭的で温かみのある雰囲気作りを努め来客者には笑顔で丁寧な対応を心掛けている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一人ひとりの希望に沿った支援は難しい。体調や天候を考慮し、可能であれば散歩やドライブに出掛ける事はある。またデッキにて食事やおやつを摂り、歌を唄い過ぎたり、草引きや、庭のいちごを採ったり、洗濯を干す事はある。	○	△	○	近所を散歩したり、季節の花を見にドライブしたりしている。気候の良い時期には、デッキでおやつを食べるなどしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	近隣住民の方等の情報をもとに地域行事等の参加を計画し可能な限り外出に努めている				○ 重度の利用者はいない。外出時はほぼ全員で出かけている。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	デッキにて、食事やおやつを摂ったり日光浴を行う等、安全に配慮しつつ戸外にて過ごす時間の工夫を行っている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	普段は行くことが難しい場所での食事や買い物等、ご家族に協力いただき実施できるように努めている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	月例の認知症学習等にて学びの機会を設け理解に努めている。個々の要因等も、変化や症状が出現したら速やかに職員間で情報共有し模索検討し、種やかに過ごす事ができるケアの実践に努めている				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月例の学習会にて学びの機会を設け理解に努めている。日々の生活の中で個々の残存機能を活かし、家事全般、衣類の着脱、排泄動作、歩行、レクリエーション、体操等を適し自然に維持向上が図れる支援の工夫を行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者個々のペースに合わせ、最低限の声掛けや見守りに留め、残存機能の活用を努め支援している	○		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントや本人、家族からの会話から情報を引き出せるように努めている				居間や廊下のモップかけ、日めくりカレンダーをめくる、食事のメニューをホワイトボードに書くなど、役割を持って暮らしている人のケースがある。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	暮らしを継続していく上で本人の気持ちを優先しながら役割を担っていただくように努め、一部介護計画書にも盛り込んでおり、生きがいとして取り組めるようにしている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	散歩時にはゴミ拾いを行い、地域の美化活動に努めている。また、運営推進会議では餅つきを行い近隣住民の方と楽しみの時間が持てるように努めている				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	化粧や、好きな色、好みの服装を把握している				○ 清潔にして似合う服を着て過ごしていた。  ○ 朝夕の着替えを支援している
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人やご家族からの聞き取りをもとに把握できるよう努め、ご家族にも協力いただき、季節も考慮し支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族にも協力いただき、気持ちに沿った支援に努めている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出用の衣類を用意、準備しており、目的に相應しい服装を楽しめるように努めている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人が気が付かない内に処理したり、生活の中でさりげない声掛けを行い配慮に努めている	◎	◎	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族に協力いただき、行きつけや馴染みの店にて行えるように努めている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日の整容、更衣介助時に、その人らしさが保てるように支援に努め、清潔を心掛けている			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	月例の学習会等にて学びの機会を設け理解に努め、調理工程も楽しみや張り合いとなるように積極的な参加を促している					
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	調理や盛り付け、後片付けは一緒にやっており、献立で作成については、利用者が食べたい料理や好みの料理を日々の会話から拾い反映している。また、行事食は必ず盛り込み季節を感じて過ごしていただけるように努めている			○	利用者が職員と一緒に食事の下ごしらえをしている様子がみられた。 昼食後、お盆を拭いている利用者の様子がみられた。買い物や献立作りは職員が行っている。	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをすすめる等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者が自ら考える力や積極性を大切にできている、張り合いや自信に繋がる支援に努めている					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時にご家族からのアセスメントにて把握している他に、本人から聞き取り、摂取状況にて把握に努め、献立とは違う物やアレンジを加えた物を提供している					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	夏には、そうめん流し、バーベキュー、冬にはおせち料理や七草粥等、毎月行事に合わせた献立を作成し、誕生日には本人の希望に沿った献立でも作成している。お彼岸等はおはき作り、収穫したさつま芋でおやつ作りも行っている				○	利用者の希望を聞き、献立をアレンジしている。 利用者の苦手なものは調理方法を工夫したり、代替え品などを用意している。
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	刻み食は最小限に留めており、料理に合わせて器を決め陶器類を多く扱っている。また、身体、健康状態に合わせて乳製品や繊維質の摂取制限を行ったり、お粥にて対応する等の工夫に努めている					
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご家族に持参いただき、利用者一人ひとり使い慣れた物を使用している。力に応じ、スプーンや自動具等を使いわけている				◎	茶碗や湯飲み、箸は個人のものを使用している。
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員2名が必ず同席し、会話の仲介や見守りを行い支援している。楽しく美味しい食事を摂れるように、邪魔にならない音量でBGMも流し、サポートに努めている				◎	職員も利用者と同じものを同じテーブルで食べながら、「茶碗蒸しもおいしいから食べてみようか」などと声かけしながらサポートしていた。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	極力、手作りの食事を提供しているため、台所から近いリビングや食堂で過ごしていただき、食事の雰囲気を感じていただける配慮をし、声掛けや会話で伝えている		○	○		昼食前には全員で口腔体操を行っていた。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	献立手作成時は偏らないように栄養面も考慮している。 食事、水分摂取量は記録しており、不足分は好物を提供する等し補えるように努めている					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	毎食事に汁物の提供を行っている他、配茶の時間を細かく設けており、摂取が難しい利用者には、ご家族に協力いただき好物の持参を依頼している。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が作成した献立をアレンジしている他、短期間と同じ料理が重ならないように前後の献立を確認している				△	定期的に話し合う機会は持っていない。 献立は、以前栄養士資格を有する職員が立てたものを参考に立てている。		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	定期的な買い物で新鮮な食材を確保。生肉や鮮魚の調理器具を使い分け、使用後は消毒、洗浄、乾燥を実施。布巾は煮沸消毒を実施。シンク掃除は毎日実施している。							
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	全利用者に毎食後、促し、見守りを行い実施している。利用者に応じ、仕上げ磨き等の必要な介助を行い、確認している					
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	基本情報にて義歯の有無。状態を記している他、口腔ケアや服薬介助時、または、本人訴え時に口腔内の把握に努めている			◎	年に1回書き換える基本情報のプロフィール内に、口腔状態を記入している。 異常が見られた場合は日誌や介護記録に記入している。	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	月例の学習会や外部研修等にて学びの機会は設けているが、月例の学習会は職員が行っている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯ブラシを使用し、利用者個々に応じた支援に努めている					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、利用者個々に応じた介助や支援を行っている。必要に応じ、マウスウォッシュの使用等も行い、汚れや臭いの除去に努めている。毎夜、義歯を預かり消毒も実施すると共に、状態の維持に努めている				◎	朝、昼、夕食後に口腔ケアを支援している。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内に異常がみられた場合は早急に家族に報告相談し受診や往診の調整を行っている					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	清潔を保持すると共に、状況は排泄パターンを考慮し支援に努めている。また自尊心を尊重し、失敗による意欲低下やダメージを予防し、プライバシーにも配慮し介助に努めている				排泄が自立している人や声かけて誘導する人など全員がトイレで排泄できるように支援している。必要時にはミーティングやカンファレンス時に話し合っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘に対して様々な取り組みを行っており、食事や水分、運動、服薬等を総合的に原因を探り予防に努めている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄表を活用したり、動作等にて適時声掛け案内を実施している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	月例ミーティングやカンファレンス時に、見直しを行い、個々の要望や、個々の自尊心について検討し、状態に応じた支援に努めている	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	定期的に職員間で情報交換や検討を行い、対応を統一している				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	状況や兆候にて柔軟な対応を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者の状態に応じ、尿取りの種類や、夜間、日中、外出時等で使用する物を使い分け、本人やご家族に説明や相談を行っている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	排泄物の状態や、身体状態等に応じて適切な物を使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	繊維質を多く含む食材を使用したり、毎食時には寒天ゼリーの提供を行っている。また、水分摂取の強化に努め、毎日排便に特化した体操を行い、排泄時の姿勢や声掛けに留意し支援に努めている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	×	温度や長さの希望に沿うことはできているが、時間帯や回数の習慣継続は人員配置や業務時間等の観点から希望に沿うことは難しい	◎			週に3回入浴できるように支援している。湯温や長さはその時々希望を聞き対応している。入浴剤を使用する人がいる。タ方の入浴を希望した人がおり支援に取り組んでみたが、職員体制の都合などもあって現在は日中の支援となっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	入浴剤の使用や空調を整え、本人の好みの湯温にする等した上で、プライバシーにも配慮し支援に努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	残存機能を活用し、見守りや声掛け促しで対応する事もある。介助が必要な場合は最小限に留める				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声掛けの工夫に加え、入浴前にマッサージを行う等し、リラックスしていただく事に努めたり、入浴前は関わりを大切に信頼関係を作り入浴に繋がるように努めている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝のバイタル測定をもとに見極め、異常がある場合は再検を行う等にて再度見極めを行っている。入浴後は、様子観察をしっかり行っており、必要時にはバイタル測定を行い、本人に気分の確認もしている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入眠、起床時間、排泄時間を記録し把握に努めている。また、午睡の時間も設けている。				安眠に向けて掻痒感の軽減をしたり、病院受診時には状況を受診ノートに書いて報告し、医師とも相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、精神安定が図れるように支援に努めている。また、一日の生活リズムやパターンを崩さないようにタイムスケジュールを意識している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	原因を様々な視点や角度から探り、日中活動に反映し、それらを再検討し支援に努めている。受診時は必ず、近況等を記したノートを作成し主治医に確認いただき、必要時は面談にて相談している				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午睡時間は定時に設けており、自室の静かな環境で過ごせるように配慮している。また、他者との関わりが安らぎに繋がる利用者にはフロアで過ごしていただく				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望により電話の利用支援を行っている。また個人所有の携帯電話を持ち込まれている方もいる。手紙は年に二度、はがきを出す程度である				△
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	積極的に促す事はあまりないが、必要時は支援を行っている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	状況により個室へ案内できる時とそうでない時がある				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙やはがきを利用しコミュニケーションを図り、意識付けは行っている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族への援助要請は適宜行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	基本的には金庫にて預かっているが、少額を財布に入れ所持している方もいる				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要物品はご家族が持参くださり、好みの買い物もご家族と出かけている為、日常的に支援する場がない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に一緒に買い物に出かける機会を設けておらず行っていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	ご家族と相談し所持方法を検討している。少額を財布に入れて所持している方もいるが、基本的には金庫にて保管し必要時は職員が持参、支払い時に本人に渡し支払いを行っていただいている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	利用者、ご家族同意の上で金銭管理を行っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	重要事項説明書や契約書に保管方法を明記しており、収支は都度、出納帳に記載している。毎月、出納帳の写しをご家族に送付し残金の確認を行っていただいている				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	満足した生活が送れるように様々な取り組みを模索している。似顔絵ボランティアや童謡唱歌の会ボランティアの方に来訪いただいた	◎		○	孫の結婚式出席のための身支度を手伝った事例がある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	少し離れた場所には看板を設置し、門扉は日中は常に開放している。玄関には季節が感じられる装飾や花を生け、あたたかみのある雰囲気作りを努めている	○	◎	○	道路の入り口には事業所の看板を建てている。玄関の外には花壇があり、バラなどの花を植えている。玄関には節分の置物を飾っていた。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていないか等。)	◎	食堂や玄関には毎月季節が感じられる装飾を飾り、廊下には様々な場面で撮影した写真を掲示している。冬は和室に堀こたつを配置し家庭的な雰囲気を大切に、食堂には季節の花を飾る等、心地よさを努めている	◎	◎	◎	居間の一角の畳の間には掘りごたつがある。廊下の壁には行事の写真を掲示していた。テレビの前にはソファがあり、屋敷後昼寝する人がいた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	職員も環境の一部と捉え、必要以上の音量は出さないよう努め、カーテンにて光の調整を行い不快な臭いがないように換気や掃除を毎日実施し芳香剤を使用している			◎	不快な音や匂いは感じなかった。廊下や居間は、利用者が午前、午後モップかけをしていた。加湿器で湿度調整をしている。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	広い窓より田畑が見え、季節の歌を唄い、BGMも季節感のあるものを流している。季節の花をテーブルに置き、季節を感じる装飾を飾っている。おやつ作りや献立にて自分で収穫した旬の食材を取り入れている			◎	畳の間には雑飾りを飾っていた。食堂にはピアノがあり、職員の伴奏で春の小川を歌っていた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	居室、食堂、フロア、和室は常に開放されており、和室は障子にて仕切ることができる為、プライベートな空間として利用できている。好きな場所で過ごせるように配慮している				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	扉は閉めるように心掛けている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご家族や本人と相談し、使い慣れたものや必要な物、好みの物を持ち込んでいただいている	◎		○	孫のアルバムを置いたり、家族の写真を貼ったりした。家族が持参した造花を飾っているところがあった。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや居室がわかりやすいように、張り紙にて場所を明確にしたり、表札の隣に本人の写真を掲示、花飾りをする等し目印をつけ工夫している。安全に移動できるように、障害物となる物の置き場所を確保、統一している			○	利用者の歩行の妨げにならないように、歩行器や車椅子の置き場所を決めている。タバコを吸う利用者には職員が付き添い、デッキで吸うように支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	その都度、職員間で細目に情報交換を行い検討して対応している。薬品については、目に触れない場所にて保管を行い使用時は細心の注意を払っている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌はさりげなく共有スペースに置いている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解しており、基本的に施錠は行っていない。自由に行動できる環境の提供に努めている	◎	○	◎	玄関は鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	必要時には家族に状況説明と共に相談や理解をいただけるように努めている				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	利用者の行動パターンの把握を行い、見守りの強化に努めている。また、帰宅願望に繋がらないようなケアの実践にも努めている。過ごす時間の多い食堂からは視覚となる玄関や非常出口にはセンサーを利用している				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	基本情報等から病歴や現病歴の把握はできており、服薬情報等にて確認を行っている。また、聞き慣れない病名については勉強会にて知識の習得や確認を行っている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	些細な事でも変化があれば、個人記録や日誌に記している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	心身の異常があれば迅速に家族に報告し、受診調整を行うほか、主治医に面談し相談、連携を図っている				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	同法人内に拘らず、これまでの受療状況を優先している。ご家族から相談がある場合は様々な医療機関情報を提供し、本人やご家族が納得し受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	受診時には必ず状況報告を行っており、必要時には主治医と面談にて報告相談し、適切な医療の提供に努めている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診はご家族に協力いただき、結果等はご家族より報告を受ける。疑問点等があれば医療機関に確認を行う				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	書面や口頭にて情報提供を行っており、使い慣れている物品を入院先にて使用していただいている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	ご家族も含め、連携を図り情報交換を行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	必要に応じ連携を図っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護ステーションや協力医療機関に相談し連携を図っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	日中、夜間を問わず連絡体制が整っている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	△	状況や状態を細かく伝える事はできているが、体制は整っていない				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方されている薬情報の確認を行い把握に努めている。個人記録ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の仕分けや服薬時の支援は担当職員が統一し行い、服薬までに複数の職員がチェックを行っている。服薬時は名前の確認等もやっている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常的に確認は行っているが、処方薬の変更や追加時は状態観察や情報共有を密に行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人記録や日誌に記す他、受診時には書面にて情報提供を行い、ご家族にも説明し受診時の補足を行っていただいている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時に意向確認を行っているが、状態変化の段階毎にご家族と話し合い方針の決定共有を行っている				看取り支援の体制は整備していない。 入居時、家族には、重度化した場合、事業所で出来る事出来ない事を説明しており、現在、看取り支援の希望者はいないようだ。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	職員、かかりつけ医、協力医療機関等に現状報告や相談を行い方針の共有を図っている	○			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	何でも話し合い、職員の思いを汲み取り力量の把握に努め見極めている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所契約時に十分な説明を行い、必要時には面談を行う等し理解を得られるように努めている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	利用者の重度化が予測される時点で、職員や家族、主治医に情報提供を行い、相談し検討や準備を行うように努めている。利用者の安全や安楽を優先した支援に努め、体制を整えるように努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	何でも話し合いを重ね、コミュニケーションを密にとり支援に努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に勉強会を行うほか外部研修等にて学びを深めている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マスク使用や手洗いの励行、手指消毒は日頃から行っており、その他、職員は出勤時に検温、体調確認を実施し予防に努めている。また、感染症に対するマニュアルを作成しており、すぐに対応できる体制を整えている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	発生状況の確認を常時行い、インターネットにて情報収集に努めている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	周囲の発生状況を意識しており情報収集に努めている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員や来訪者には、手指消毒とマスク着用を徹底している。また職員は手洗いの励行を徹底しており、外部からのウイルス持ち込みがないように努めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には近況報告を行い状況の理解に努めていただき家族会や誕生会を開催し参加いただく事で、関係の構築や一体感を感じていただけるように努めている				毎月の便りに行事予定を書いて送付している。家族会の案内をして、餅つきや屋台の開催、うちわづくりなどをして交流している。  便りを毎月発行しており、運営推進会議の案内や会議報告書、請求書などを同封している。  毎月の便りに「お知らせ」として職員の異動や行事予定などを載せている。  家族来訪時には近況報告を行い、意見や希望を聞いている。居室で話したり、利用者がいないところで話したりすることもあるようだ。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	笑顔での対応を心掛け、写真の掲示を行い近況が視覚的にわかりやすい工夫を行っている。また居室や食堂、ソファで一緒に過ごしていただき、お茶やおやつを提供している				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族会や誕生会、運営推進会議の案内を行うほか、参加できる機会を設けている。面会時は家事と一緒にして頂ける事もある	◎	◎		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、写真付きのお便りを発行送付している。必要時には手紙も添付し近況報告を行っている。	◎	◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	アンケートを活用し知りたいことや要望の情報収集に努め対応している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への説明、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族会や運営推進会議等にて認知症の勉強会を実施する等認知症の理解を深めていただけるように努めてはいる。しかし、全利用者家族への周知は困難である				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお便りに掲載する他、家族会等にて口頭で説明を行い理解や協力が得られるように努めている	◎	◎		
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	定期的な家族会の開催にて交流の場を提供できるように努めている				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	予測できるリスクを説明し、家族と相談し対応策を検討している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	来訪時は職員からの挨拶を心掛け、声掛けも積極的にいきいきと会話や相談できる雰囲気を作っている				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	説明の時間を設け、わかりやすく書面にて配布する等の工夫を行い理解や納得を得られるように努めている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	情報提供を行いながら、本人が安全、安楽に過ごせる退去先をご家族と検討し決定している。退去先にも情報提供を書面にて行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金変更時等は書面にて提示し説明を行い、同意が得られるように努めている				
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方宅に訪問し説明を行い協力や理解に努めている		○		近所の散歩時には、ごみ袋を持参してごみ拾いを行っている。地域の運動会の見学や神社の祭りに出かけているようだが、さらに、地域との関係を深める働きかけについて日頃の取り組みを通じて工夫してはどうか。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	周辺や散歩時にゴミ拾いや掃除を行い、地域行事の収集に努めている。また、近所へは暑中見舞いや年賀状を送付したり、餅つきでのお餅を配布したりし働きかけに努めている		△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	交流の機会を設ける事はできているが、支援者増加までには至っていない				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	以前は子供達が立ち寄っていたが、成長し訪問がなくなっている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	時々、自前の漬物や収穫した野菜を届けていただけの事があるも日常的なおつきあいは至っていない				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	傾聴ボランティアの訪問が月に2回。その他、似顔絵ボランティアや童謡唱歌の会にて行事等の支援がある。運営推進会議にて避難訓練を行っている				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	情報収集は行っているが、秋祭りの参加程度になっている				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	周辺施設についての情報収集は行っているが働きかけまでには至っていない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	毎回、各関係者の参加があり、事業所の取り組みや報告協力要請等を行っている	◎		◎	運営推進会議には利用者、家族、地域の民生委員の参加がある。家族の参加は限られた方のみになっている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	書面を配布し説明や報告を行い、理解を深めていただけるように努めている			○	会議時に、自己・外部評価について説明している。目標達成計画の取り組み状況については、大まかな報告となっている。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や質問疑問については職員間で検討しサービスの実践を行え、報告できるように努めている			◎	○	地域行事の予定について情報提供がある。参加した際には報告を行うようだ。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて利用者の参加人数や職員を増員している。日程に関しては年度初めに市へ予定表の提出があり、固定されているが、毎回開催案内に年間予定を掲載し参加の促しを図っている			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	毎回議事録を作成し、関係者へ送付している					
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所内に掲示し、毎朝朝礼時に理念と目標を唱和し形骸化しないように努めている					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	共有スペースに掲示し誰にでもわかるように努めている	○	◎			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	理事長ミーティングを行い、職員一人一人の思いを知るよう努めている。また、定期的に研修の開催を実施している					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	計画や目標をしっかりと立てており、全職員のスキルアップに繋がっている					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回人事考課表の提出にて、把握に努め反映している。また、外部研修の参加も行える体制作りを実施している					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	市内のグループホーム交流会、市内のケアマネ会や県の地域密着型サービス協会の加入を行い、適宜研修の参加ができる体制作りを行い、相互研修の参加活動実績もある					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	年に1回、ストレスチェックを実施し、環境改善に努めている	◎	◎	◎		年に一回ストレスチェックを実施して結果は個人に届くようになっている。結果によりカウンセリングを受けるシステムがある。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	月例の学習会や、外部研修に参加し理解を深めている					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日常的かつ朝礼時やミーティング時に話し合いの機会を設けている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	日々の業務の中で注意を払い、見過ごす事がないように努め、発見時は速やかに管理者に報告し市への報告を怠らないよう理解できている				◎	法人内研修で「虐待対応の仕組みや構築について」勉強している。不適切なケアを発見した場合は注意し、管理者に報告して職員間で話し合うようになっている。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労やストレスの兆候を見逃さないように細心の注意を払い、業務に支障がないような環境作りに努めている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	学習会や外部研修の参加にて理解を深め、全職員周知に努めている					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に応じて、もしくは月例ミーティングにて、身体拘束の定義等と照らし合わせ、事例検討等を行っている					
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度説明や話し合いを行い、ケアの工夫の理解を得られるように努めている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	月例ミーティングでの学習会や外部研修にて知識を深く理解に努めている。また職員間で情報共有を行っている					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	状況に応じ情報共有提供や説明を行っている					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	家族等に説明し働きかけをしている					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由・根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実 施 状 況 の 確 認 及 び 次 の ス テ ッ プ に 向 け て 期 待 し た い こ と	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時のマニュアルを作成し定位置に保管し迅速な対応が行えるように周知はしている					
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的ではないが月例ミーティング時に模擬演習を行っている					
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	適宜記録を行い報告し、速やかに改善策や予防策を検討しているほかに、月例ミーティング時にも再確認を行っている					
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	行動予測をしっかりと行い、予防策や再発防止のための検討を行い実践している					
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、書面にて報告する仕組みを作っている					
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルを活用できる仕組みを作っており、必要時は市町への相談や報告等を行う事は理解している					
		c	苦情に対するの対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに検討改善し、回答できるような仕組みを作っており前向きな関係構築が行えるように努める事は理解できている					
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関に相談窓口を掲示し意見箱を設置しているほかに、ふれあい相談員や傾聴ボランティアを通じ機会を設けている。また、必要に応じ個別に訊く時間を設ける事もある			○	運営推進会議時に意見や要望を伝える機会がある。ふれあい相談員や傾聴ボランティアを受け入れているが、意見や要望を言う人は少ないようだ。	
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口を契約書や重要事項説明書に明示し、入所時に説明しているほか、玄関に意見箱の設置を行っている	◎		◎	運営推進会議時に意見や要望を伝える機会がある。年3回、家族会を開催して話を聞く機会を持っているが、意見や要望はあまり出ないようだ。	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に掲示している					
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	○	理事長ミーティングにて職員一人一人の意見や要望を聞く機会を設けている					
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年2回面談を行うほか、適宜話し合いの機会を設けるように努めている				◎	ミーティングで話し合いを行っている。利用者からの「肉が食べたい」という希望から、職員の提案でバーベキュー大会を行うことになったという事例がある。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価に全職員で取り組んでいる					
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価から課題が明確になりやすく、意識統一や不足している取り組みを再認識し学習する機会となっている					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果を踏まえ、取り組みの内容を具体的に検討し実践に努めている					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議にて報告しており、協力の要請は依頼している	○	○	△	運営推進会議時に報告を行っているが、モニターをしてもらう取り組みは行っていない。	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では行っているが、運営推進会議では定期的に行っていない					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害マニュアルは原子力災害以外は作成しており、定位置にて保管している					
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	様々な時間のほか、様々な災害を想定し定期的に避難訓練を実施している					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備や避難経路、保管食等は定期的に点検を行い、交換している					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議にて消防署、地域住民と共に合同で訓練を実施し、問題点等を話し合い協力や支援を要請している	○	◎	○		年に3回の災害対策の訓練を行っている。運営推進会議メンバーと合同訓練を行い、消防署員や地域住民からの意見を聞いた。
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	消防署とのみ訓練を行っている					

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議にて情報発信するに留まっているが、今3月には地域住民等を対象に内覧会を予定している				民生委員には事業所で「相談支援ができる」ことを伝えているが、相談事例はない。 3月には、事業所の見学会を開催予定でチラシを近隣の店などに配布している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	利用申込みのために来訪された地域住民の方には相談対応を行う事がある		△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用できていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の専門学生の研修受け入れに協力している				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域行事の参加は可能な限り行っているが、協働や活動は実施できていない			×	